

## 平成 29 年度 「臨地実習教育会議」 レポート

3 月 10 日、例年行われている「臨地実習教育会議」が大学で行われました。

この会議は、看護学各領域の実習施設と福島県立医科大学看護学部が協働で看護学生を育てるために、実習の振り返りや今後の課題について共有する貴重な機会となっています。県内各地の 53 施設から全体会に 94 名、各領域の分科会に 69 名の方が参加してくださいました。

前半の全体会では、本学部の 3 つのポリシーと文部科学省が策定した看護教育モデル・コア・カリキュラムについて説明させていただきました。

まず、教務委員長より、教員と教育協力機関が本学部のポリシーを共有し、ポリシーに沿った効果的な教育展開をするために、卒業認定・学位授与の方針であるディプロマ・ポリシー、教育課程編成・実施の方針であるカリキュラム・ポリシー、入学者の受け入れの方針であるアドミッション・ポリシーについての説明させていただきました。次に、教育協力機関への情報提供としてカリキュラム検討委員より、今後の看護学教育の核となる看護学教育モデル・コア・カリキュラムについて、策定までの背景や考え方、概要（概要 A：看護系人材として求められる基本的な資質・能力、F：臨地実習）について文部科学省の資料を用いて説明させていただきました。

説明後の質疑応答では、教育協力機関が本学部のポリシーを理解した上で指導することの重要性を再確認できたことや、地域包括ケアシステムも含めた今後のカリキュラム作成への期待、本学部や文部科学省の動向が理解でき、協力機関内で共有したいとのご意見・ご感想をいただきました。また、本学部のカリキュラム作成後に教育協力機関と内容を共有する機会を設けて欲しいとのご要望もいただきました。

全体会の後には、それぞれの専門領域に分かれて分科会が行われました。本年度の実習を振り返り、課題を共有して次年度の実習指導に活かしていく機会となりました。

